

巻頭言

「如己愛人」

林 文子

昨夏、長崎大学放射線医学教室同門会誌〈あらたま〉創刊号を頂いた折に、初代教授であった故永井隆先生の色紙のコピーも頂戴した。そのうちの一枚に1951年新春署名の「如己愛人」、それとは別に「平和を」と書かれた色紙がある。また同門会員の浜里欣一郎先生が、一昨年の同門会特別講演で「長崎如己（ニヨコ）の会」について言及されていたことを知った。

“私たちは永井先生の「己の如く人を愛する」如己愛人の精神を、世界の人々にひろめ、平和を維持してゆこうと、「長崎如己の会」を結成し活動を致しております。……”

浜里先生の特別講演「第11医療隊聞き書き」は、平和、飽食の時代にあつて感動なしに読むことはできない。

“原爆当時の長崎医科大学では、学内に各科教授を隊長とする11の医療隊が組織され、医局員、看護婦、学生、技術員などが配属されました。永井先生（当時助教授）は「第11医療隊」の隊長として活躍していました。……今まで生き残っている人達総てが医療従事者としての確固たる信念を持って救護活動にあたられたのです。響天動地のあの混乱のなかで、医薬品、医療器具もなく、家族の或いは友の安否をきづかいながら、逃げ出すこともせず、自分の傷も忘れて救出救護に専念されたのでした。……”

また、永井先生の残された「原子爆弾救護報告」（昭和20年8月～10月）は医学医療における全く貴重な記録である。

「長崎如己の会」の浜里先生は、永井先生の弟子であった。お二人とも、私の長崎大学放射線医学教室での大先輩である。伝説の先輩と身近の先輩である。

文月号に寄せて、“おのれのごとく人を愛し” “平和を” 祈りたいと思います。  
(1992.7.10.)

(健康文化振興財団理事長)